

懐かしかった長崎の山々 ①

旧友たちとの楽しい語らい—50年ぶりの再会も

卒後50周年記念の高校同期生同窓会が長崎市内の料亭「橋本」で10月21日開かれた。冒頭に物故者への黙祷が行われたが、その対象者は37名以上と言う。そして集まったのが132名だから、招集対象の三分の一にあたる人々が駆けつけたのだ。50年という歳月を隔てての再会もあり、互いに胸に下げた名札を見て、少年時代の面影を見つけ出しながら、固い握手をし、肩を叩き合った。思いがけない多くの人々に出会うことが出来た。それだけに準備に携わった実行委員会のご苦労がしのばれ、感謝しつつ旧交を温めあった数時間だった。

また実行委員会のご苦労と創意が感じられたのは同窓会の前後に行われたオプション行事だった。壱岐・対馬観光、五島列島観光、登山、ゴルフ、軍艦島（端島）めぐり、母校訪問などが事前に希望者を募って行われた。

私はそのオプションの一つ「ふるさと登山と島原観光コース」に参加した。共に同窓生である田崎ご夫妻そして島原出身の近藤昭紘君の、実に行き届いた準備のお陰で楽しい4日間を過ごせた。



多良岳の石仏



アキチョウジ（黒木の林道で）

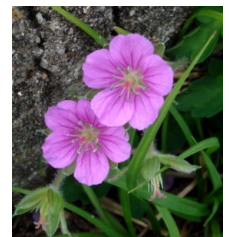
思い出多い多良岳

多良岳は長崎県と佐賀県との県境に聳える多良山塊の盟主である。この山には高校時代からよく登った。多くは一泊二日で経ヶ岳や五家原岳等にも足を伸ばしたが、日帰り山行でも登ったし、高校2年の夏にはテント、食料、炊事用具など担いでの徒歩旅行のはじめに、同級生たちとこの山塊を縦走したのだった。

10月18日大村駅前7時27分発のバスに乗って終点黒木に8時9分着。道も、バスも、村もすっかり変わっているが、経ヶ岳の景観などは懐かしくて「ヤー しばらく。ご無沙汰ごめん」と声を出したくなる。

登山口から八丁谷への林道脇にはアキチョウジ、タニジャコウソウ、ツリフネソウ、ゲンノショウコなど秋の花々が咲き競っている。

八丁谷からは山道に入る。かなりの傾斜の山道を68～69歳の同窓生たちが進んで行く。立派なものだ。年に一回の同窓会登山に備えて日頃の鍛錬を続けているのだろう。その14人の隊列をキッコウハグマ、ジン



ゲンノショウコ



金泉寺

ジソウなど小さい花々が見上げてくれる。

11時金泉寺着。高野山真言宗のお寺も金泉寺山小屋もいずれも新築されている。昔の暗く、冬には煙たかった山小屋が懐かしく思い出される。

早速多良岳山頂へ。役の行者の石像や石仏に見守られながら多良権現岳（996m）に。ここで別ルートから登ってきた白石君が合流。北に経ヶ岳、南西に雲仙の諸峰が見える。

金泉寺前のベンチで昼食後轟の滝めざして下る。レイジンソウ、モミジガサなどが咲いている。まもなく「金泉寺駐車場」に出る。ここまでは車で来れるらしい。そのため、ここから轟の滝までの山道は通る人が少なくなったのだろう、道が荒れていて、しかも鮮明とは言いがたく、ここでトラブル2件が発生。女性一人が腕を負傷し、他の一人は谷川の流に落ちてずぶぬれとなった。いわゆる「魔の2時」前後だった。山での事故発生率が最も高い時間帯だ。

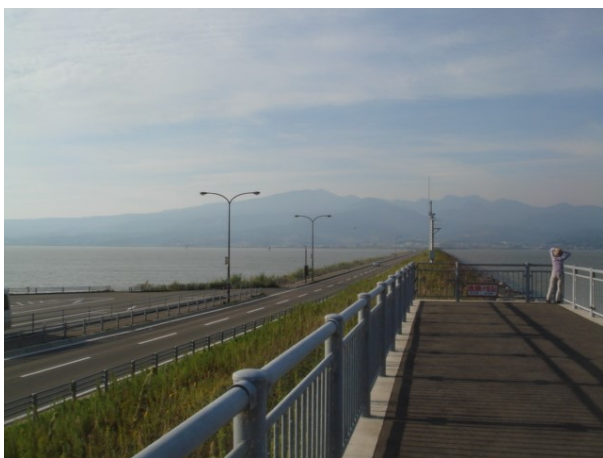
15時過ぎに轟の滝着。全員の荷物を積んだ田崎車を回送してきた近藤君とホテルのマイクロバスとが待っていてくれた。

湯江から雲仙に向かう途中で「諫早湾干拓堤防道路」を通った。30分短縮できる近道だと言う。途中のパーキングで車を停めて見学したが、何という「壮大な無駄」なのだろう。この工事に投じられる税金は2533億円。

農水省は減反をペナルティつきで強行して田圃をつぶしながら、ここでは「農地を増やすために」干拓を進めると言う。矛盾した話だ。諫早湾はもとより有明海の生態系をも壊すおそれがあるなど、各界から強い反対運動が起きて、農水省は立ち往生の状態だが、はたしてどうするのだろうか。



レイジンソウ（多良岳）



諫早湾干拓堤防道路（遠くに多良山塊）

お詫びと訂正

「山と花のたより」128号で「トモエシオガマ」と紹介した花は「シオガマガク」でした。トモエシオガマはシオガマガクの変種で生育地は深山となっています。訂正してお詫びします。